

論文内容要旨

論文題名：DPC データを用いた入院医療費に影響する因子
～食道悪性腫瘍と喫煙歴の関係～

専攻領域名：医療マネジメント領域

氏名：光本 英雄

内容要旨

【目的】喫煙による超過罹患に関わる医療費は、国民医療費の約 5% を占めると言われている。国民医療費が年々増加している背景からも喫煙による超過医療費の削減は喫緊の課題であると考えられる。これまで喫煙が周術期の合併症を増加させることは多く報告されているが、罹患後の治療過程において、喫煙が医療費にどの程度影響を及ぼすのかは明らかになっていない。そこで本研究では、主要な危険因子として喫煙が挙げられている食道癌に着目し、胸腔鏡腹腔鏡併用食道亜全摘術 (VATS-E) 施行症例における周術期の入院治療において、喫煙歴の有無が入院医療費に与える影響について DPC データを用いて検討した。

【方法】平成 24 年 4 月から平成 26 年 3 月の期間に DPC 算定病院である A 大学病院で入退院が完了した食道癌症例のうち VATS-E を施行した症例を対象とし、DPC データ (様式 1、D ファイル、EF 統合ファイル) を用いてデータの収集・分析を行った。また、様式 1 の「喫煙指数」より非喫煙群 (喫煙歴なし) と喫煙群 (喫煙歴あり) に分類し、各群の性別、年齢、入院日数、手術前入院日数、手術後入院日数、DPC 入院期間、合併症発症率、入院医療費 (DPC/PDPS、出来高計算方式)、について比較・検討した。性別、DPC 入院期間、合併症発症率は χ^2 乗検定、その他の項目は Wilcoxon の順位和検定を用いて解析を行った。

【結果・考察】全症例のうち喫煙群は約 80% を占めた。また、非喫煙群では男女比がほぼ均等であったのに対し、喫煙群では男性の比率が著しく高かった。これは、喫煙が食道癌の危険因子であること、また、男性に喫煙者が多いことを反映していると考えられた。入院日数、手術前入院日数、手術後入院日数、DPC 入院期間、合併症発症件例数、入院費 (DPC/PDPS、出来高計算方式) は、喫煙群が非喫煙群に比べて多かったが有意な差は認められなかった。喫煙歴の有無が入院医療費に大きな影響を与えなかったのは、A 大学病院では習慣的喫煙者であっても手術 1 ヶ月前からの「完全禁煙指導」を行っていることや、低侵襲の術式である VATS-E を施行している等、合併症予防対策を徹底しているためだと考えられた。このように合併症予防対策を講じることは、患者の QOL 向上のみならず医療費削減につながるため重要であると考えられる。また、A 大学病院における術後合併症予防対策は有用であることを示唆していると考えられる。